

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果について

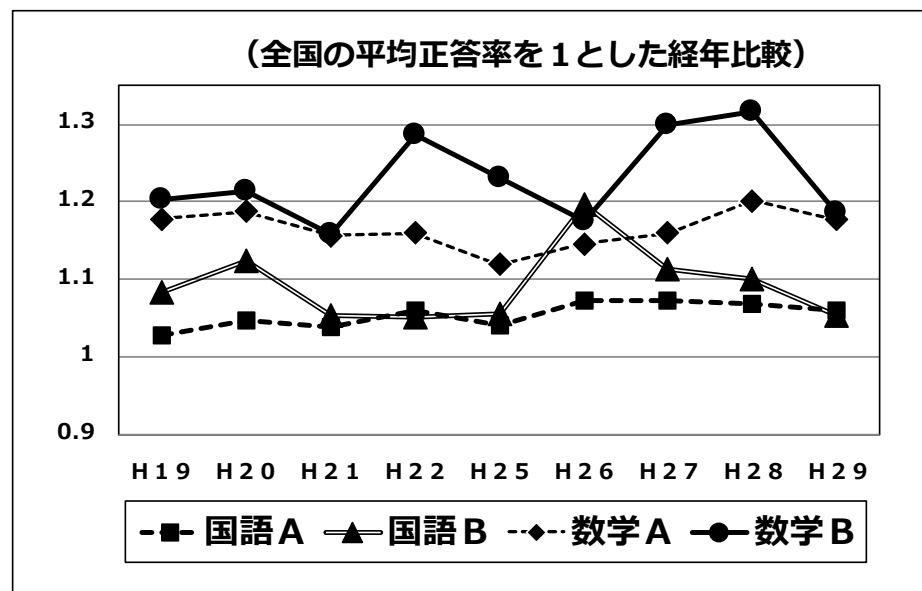
枚方市立楠葉中学校

文部科学省が今年 4 月に実施した、平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果について、保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童（生徒）の生活習慣と学力には相関関係があることから、今年度は、全国を基準とした経年推移によって、本校の学力や学習の状況をお知らせするものです。引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。



<学力調査結果の概要>

- 国語 A について
全国平均、大阪府平均を上回っている。文章の要旨をとらえる問題や漢字の読みの問題、正しく言葉を選ぶ問題などの正答率が高く、国語の基礎的な力についてはいるものと考えられる。
- 国語 B について
「読むこと」「書くこと」に関する問題で平均を大きく上回っていた。理解しながら話を聞く力が高く、また登場人物の言動を読み取る力が高い。
- 数学 A について
本校の正答率はどの領域においても全国平均を大きく上回っている。「数と式」の領域では数や整式の計算、一元一次方程式の解き方がよく理解できていた。
- 数学 B について
本校の正答率はどの領域においても全国平均を大きく上回っている。問題場面における考察の対象を明確に捉えることができた。

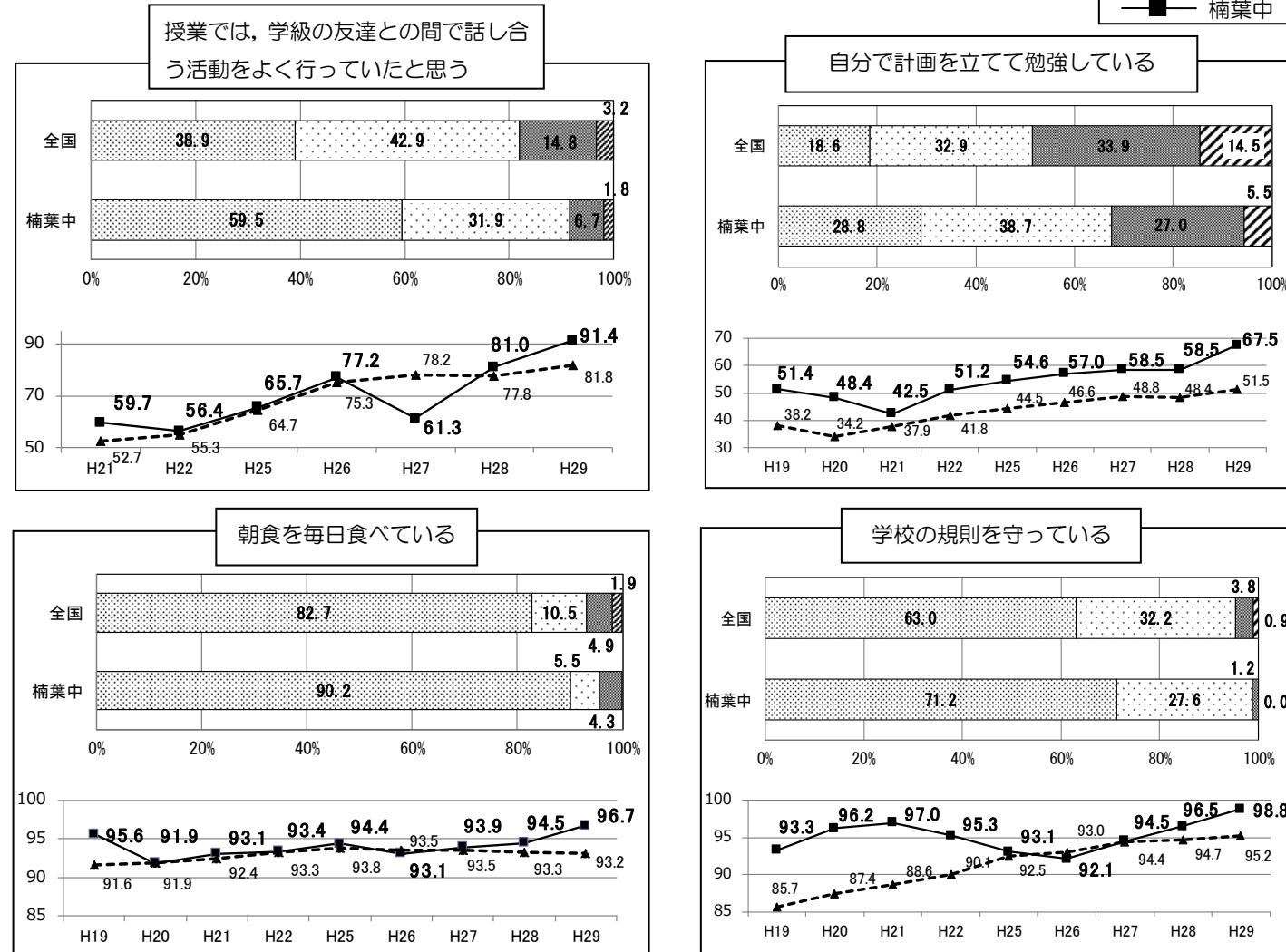
※本調査は、平成 19 年度から実施されています。
※平成 23 年度は中止(東日本大震災)、平成 24 年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値です。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

▲ 全国
■ 楠葉中



<質問紙調査結果の概要>

- 授業改善について
「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う」肯定的回答が全国を上回っている。本校の授業改善が進んでいることを示していると言える。
- 家庭学習について
「自分で計画を立てて勉強している」肯定的回答が全国を上回っているが、生徒の「自ら学ぶ」という姿勢を家庭と連携し、さらに育成する必要がある。
- 学習規律について
「学校の規則を守っている」肯定的回答が約 99%である。きめの細かい生徒指導とチャイム着席の徹底の成果であると思われる。
- 生活習慣について
「朝食を毎日食べている」という項目だけでなく、その他の生活習慣にかかわる質問についても肯定的な回答が全国平均を上回っている。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

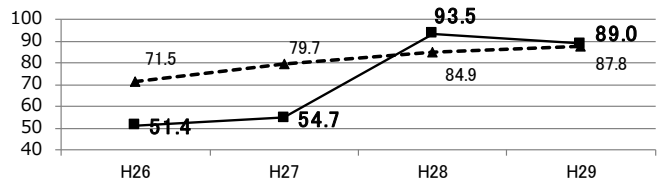
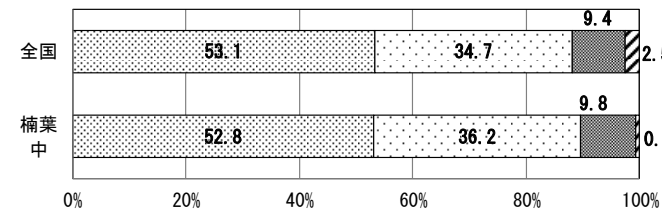
質問紙調査について

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値です。

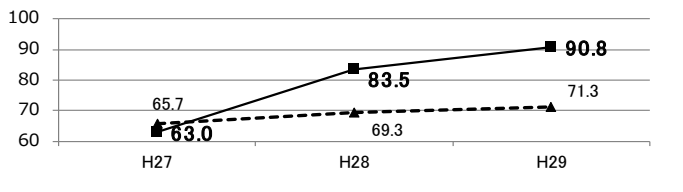
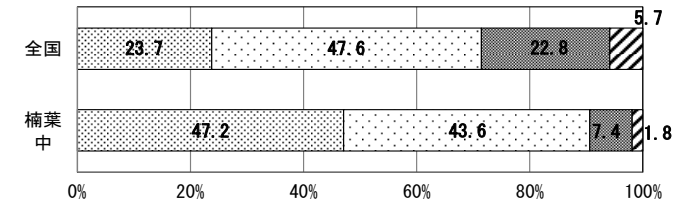
▲ 全国
 ■ 楠葉中

【成果のあった項目】

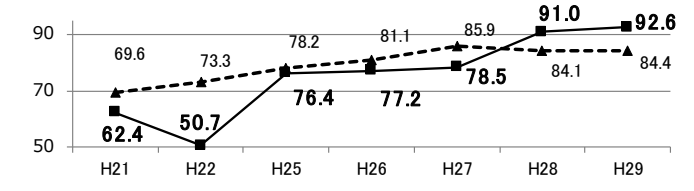
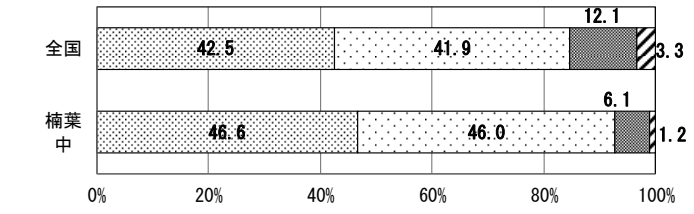
授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う



学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか



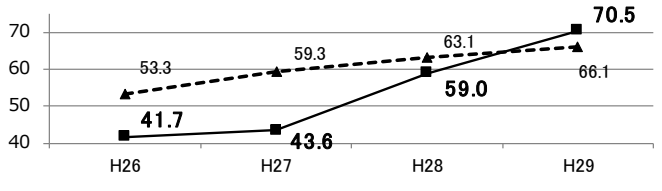
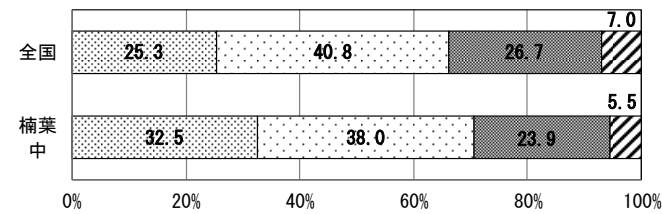
心だんの授業では、自分の考えを発表する機会がよくある。



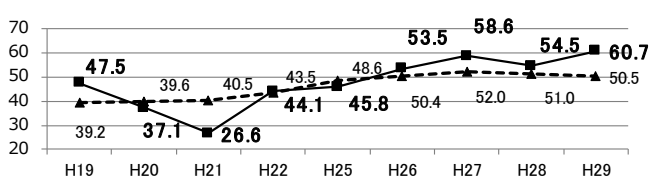
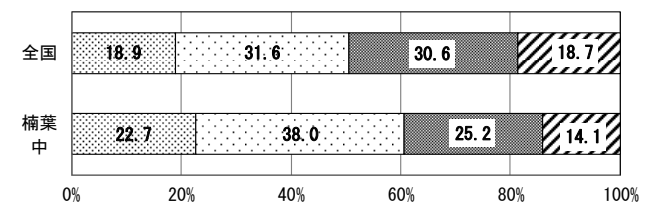
(考察)
 授業の中で目標を示し、今日の学習の方向性を明確し、子どもたちに見通しを待たせることが、重要である。この取り組みについては、定着してきている。
 「自分たちで課題を立て、情報を集め、話し合い、整理して発表する」といった主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業に関する質問については、肯定的な回答が年々増加している。これらのことから、本校における学力向上を目指した授業改善が進んでいることが言える。

【課題が残った項目】

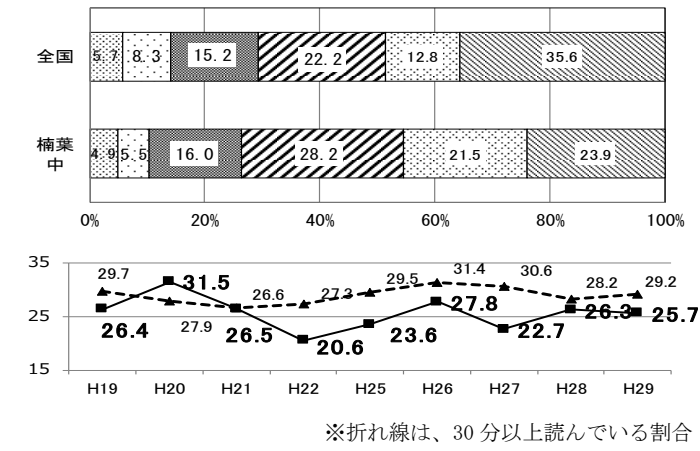
授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う



学校の授業の復習をしている

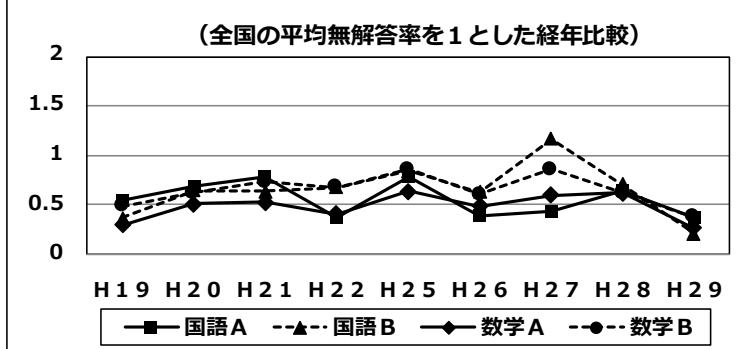


学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか



(考察)
 「授業の最後に学習内容を振り返る活動」については、全国平均よりも高く、上昇傾向があるが、まだ不十分である。今後も組織的に取り組む必要がある。
 「授業の復習」についても全国平均よりも高いが不十分である。家庭との連携を深め、取り組む必要がある。
 「読書の時間」については、全国平均より低く、単語力や読解力に効果があるといわれる読書については今後も組織的に取り組む必要がある。

まとめ 学力調査の結果では、正答率が高い生徒が多いことに加え、正答率が40%以下の生徒が極めて少なく、無解答率もきわめて低い(今年度平均 2.0%、対全国比 0.31)ことが特徴的でした。このことは、「授業がわかりやすい」という質問において肯定的回答が高い(国語:90.8%、数学74.8%)、「先生はあなたのよいところを認めている」という質問においても、肯定的回答が、84.7%(全国:80.4%)わかりやすい授業が行なわれ、生徒と教員との関係も良好だといえる。また、朝食の喫食率の高さや、スマホ等使用時間の低さ(非所持率22.1%)等、保護者が学習に集中できる環境づくりを気にかけている家庭が多いことを示しています。このことは、毎年4月にPTAと地域教で合同実施している「スマホ関連」講座への保護者の出席率の高さや、食育への関心の高さからも推測できます。



授業の終わりに振り返りを行い、学んだことを確認することについては、全国平均よりも高いですが、不十分だと考えています。学力向上委員会を中心に組織的に取り組んでいきます。また、自分の考えを発表する機会を増やすことや、生徒間での話し合いを重視した指導は、新しい学習指導要領では重視されています。今後もアクティブラーニングの視点に立った指導を取り入れていきます。
 「自分で計画を立てて家庭学習する」ということについては、課題です。家庭学習の習慣づけ、自学自習力の向上について、小中連携を強化して小中9年間の取組として学力向上に努めていきます。
 様々な取組について、内容を充実させ、さらなる高みをめざしていきたいと考えています。引き続き、保護者の皆様には、本校の教育活動へのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。